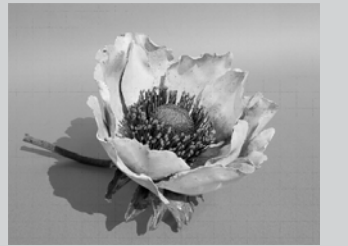


# 香美市立美術館 平成21年度 展覧会

※は団体20名以上。高校生以下は入場無料です。

## 第23回企画展

杉浦康益 陶の花たち 展  
開催中～5月10日(日)



「アネモネ」

1949年東京都生まれの杉浦の四国初となる展覧会を開催。2000年から発表している「陶の博物誌」シリーズは、植物の精密な構造をそのまま数倍の大きさにして陶で表現している。今回は新作を含めた繊細かつ力強い「陶の花」約40点を展示。  
■入場料 500円(250円)

## 第26回企画展

第39回 世界児童画展・四国展  
8月15日(土)～9月13日(日)



昨年度読売新聞社賞受賞作品  
小松祐生(小学3年生)

「いってらっしゃい最終便！」  
四国四県の子どもの入賞作品を中心に、海外の子どもの優秀作品を併せた約1,000点を展示。

★展示内訳  
高知県187点・愛媛県360点  
徳島県51点・香川県297点  
海外作品点数未定。  
■入場料 300円(150円)

## 第24回企画展

木村林吉 展  
5月16日(土)～6月14日(日)



「集積体」

1916年中村市生まれの木村林吉の展覧会。高知では初の個展となる。立体及び平面作品約40点を展示。

★オープニングセレモニー  
5月16日(土)13:00～  
★木村林吉・大野由紀夫(高知新聞社編集委員室長)ギャラリートーク  
5月16日(土)13:30～  
★松本教仁(高知県立美術館)スペシャルギャラリートーク  
5月24日(日)13:30～  
★「カミムラアキコ展」  
5月16日(土)～24日(日)  
★「土方佐代香展」  
5月30日(土)～6月7日(日)  
■入場料 500円(250円)

## 第27回企画展(1)

土佐の熱き芸術家たち  
前期 明治・大正から昭和へ  
9月19日(土)～10月25日(日)



石川寅治「菊畑」

前期は明治・大正から昭和にかけて活躍した作家の作品を展示。

★主な出品作家  
石川寅治・平賀亀祐・手島右卿ほか  
★協賛 四国銀行  
★オープニングセレモニー  
9月19日(土)13:00～  
★スペシャルギャラリートーク  
9月19日(土)13:30～  
★ロビー展示「若き芸術家たちの今」リレー展  
■入場料 300円(150円)

## 第25回企画展

岩井王山と絵金  
7月7日(火)～8月9日(日)



「岩井王山 日本画下絵」

明治・大正時代にかけて活躍した香南市香我美町の日本画家・岩井王山の画業を、個人コレクションより一堂に紹介。岩井王山の残した大量の王山自身の下絵や、王山保管の絵金に関わるとされる資料とともに高知にもたらされた狩野派の貴重な資料約60点を展示。

★オープニングセレモニー  
7月7日(火)13:00～  
★開催記念  
村上純一ギャラリートーク  
7月7日(火)13:30～  
★村上純一ギャラリートーク  
7月19日・26日・8月9日  
13:30～(すべて日曜日)  
■入場料 300円(150円)

## 第27回企画展(2)

土佐の熱き芸術家たち  
後期 昭和から平成へ  
11月7日(土)～12月20日(日)



門田光秋

「ふるさとの川(神母ノ木)」  
後期は昭和から平成にかけて活躍した作家の作品を展示。

★主な出品作家  
門田光秋・福富栄・小松明・福原云外ほか  
★協賛 四国銀行  
★スペシャルギャラリートーク  
11月7日(土)13:30～  
★ロビー展示「若き芸術家たちの今」リレー展  
■入場料 300円(150円)

## 第28回企画展

特別展 筒井広道 追悼展  
2月13日(土)～3月28日(日)



「集う浜の子供達」

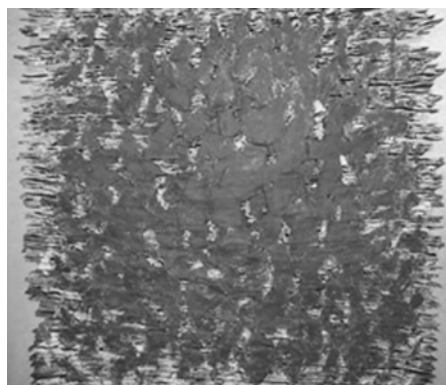
筒井は一水会、日展で活躍しつつ、県芸術文化振興に貢献、1996年には出身地である芸西村に筒井美術館が開館した。

多くの筒井門下生を育て後進の育成にも尽力したが2008年に逝去。約75年にわたる画業を振り返る追悼展として開催する。約30点を展示。

★オープニングセレモニー  
2月13日(土)13:00～  
★スペシャルギャラリートーク  
2月13日(土)13:30～  
★ロビー展示「教え子の皆さんたちの作品展」リレー展  
■入場料 300円(150円)

## 「木村林吉展」

5月16日(土)～6月14日(日)



木村さんの作品『集積体』

木村さんの作品の中で、80年代から始まり90年代まで続けられる『集積体』の一連の作品は、薄い紙や木の間にアクリル絵の具をはさんで積み重ねられていきます。気の遠くなるような作業の集積が凝縮され、ひとつの作品として生み出されます。



は、積み重ねられた木片の上に、さらに赤のアクリル絵の具が塗り重ねられ、作家の情熱がストレートに伝わってくる作品だと思えます。同時期の作品は高知県立美術館に収蔵されています。

今回は、会場の入り口には、75歳を越えてから取り組んだ、樹齢350年にも及ぶ大木の輪切りの作品が並びます。高さ約2メートル、重さ数百kgの『集積体』。木の精霊が宿っているのではないかと思われるような不思議な魅力を感じています。

長く中央で活躍してきた作家の集大成というべき展覧会です。是非ご覧ください。皆さまのご来館をお待ちしております。

(館長・北 泰子)

## ★展示室利用者募集★

グループ展などで展示室を利用しませんか？  
美術活動の発表の場として、企画展を開催していない時期に、展示室を貸し出しています。  
平成22年度(平成22年4月以降)の貸館仮申請書を受付中です。なお、仮申請書の提出締切りは10月末日です。  
詳しくはお問い合わせください。

### 《参考》

- ①『第19回山田高校芸術三科合同発表会』  
1月9日(土)～1月17日(日) ※入場無料  
山田高等学校の書道と美術の授業作品と、課外クラブ作品(書道部・美術部)を展示
- ②『香美市こども市展』  
1月29日(金)～2月4日(木) ※入場無料  
市内の小中学校の児童生徒作品を一堂に展示

【問い合わせ先】美術館 ☎53-5110

四万十市(旧中村)出身で、92歳の今日まで精力的に制作を続けている現代美術作家・木村林吉さん(東京都在住)の作品展を開催します。  
1916年(大正5年)生まれの木村さんは、県内で教師をした後、戦後上京し、東京で教師を続けながら、作家として制作活動をしてきました。51年から70年にかけては「新制作展」に、71年は「第10回毎日現代展」に出品。70年代からは個展やグループ展を中心に現代美術の作品を発表し

瀨に美術の光と風を起す会」を発足させ、足立区内の施設を中心に現代美術展を企画・開催し、地域の美術普及と振興に貢献されています。  
木村さんの作品の中で、80年代から始まり90年代まで続けられる『集積体』の一連の作品は、薄い紙や木の間にアクリル絵の具をはさんで積み重ねられていきます。気の遠くなるような作業の集積が凝縮され、ひとつの作品として生み出されます。

